

生活習慣病センターだより

☆ 「基準範囲と診断基準値は同じ？ちがう？」 ☆

2024年5月発行

検査値が基準範囲内だから大丈夫？…基準範囲外だから病気？…と思ったことはないでしょうか。
実は、基準値と診断基準値はちがうものです。

【基準範囲】

ある一定の条件を満たした、いわゆる”健常者”と呼ばれる人の検査データをもとに測定値の統計を取って上下2.5%を除外した数値の範囲を指します。「基準範囲」は検査値を判断する一種のものさしとして有用です。

共用基準範囲

検査項目	基準値	単位
総コレステロール	142~248	mg/dL
HDL-コレステロール	38~90(男) 48~103(女)	mg/dL
LDL-コレステロール	65~163	mg/dL
中性脂肪	40~234(男) 30~117(女)	mg/dL

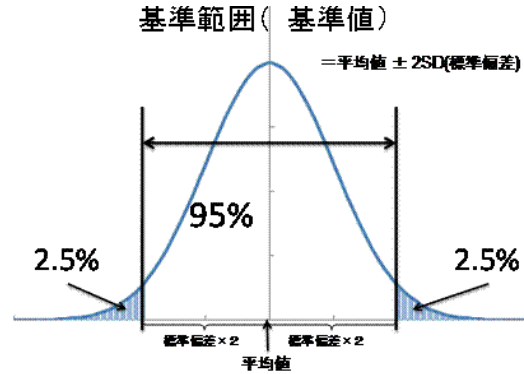
【診断基準値】

疫学研究から将来の発症が予測され、予防医学的な見地から一定の対応が要求される検査閾値のことを診断基準値と言います。

これは、疾患の診断、治療、予防の判定のために用いられるものとして、各専門学会がガイドライン等の形で公表しています。

脂質異常症の診断基準

LDL コレステロール	140mg/dL 以上	高 LDL コレステロール血症
	120~139 mg/dL	境界域高 LDL コレステロール血症
HDL コレステロール	40 mg/dL 未満	低 HDL コレステロール血症
中性脂肪 (TG)	150 mg/dL 以上 (空腹時)	高 TG 血症
	175 mg/dL 以上 (随時)	



当院の基準範囲は、どの施設で測定しても同じ指標で測定データを解釈することが可能な日本臨床検査標準協議会が定めた共用基準範囲を採用しています。

例として、左に示すのが脂質検査の共用基準範囲です。

一般的に脂質異常症は左の診断基準に従い血液検査の結果で判断されています。そのため、基準範囲内でも「要注意」と判断されることがあります。

病気を早期発見するための健診などで採用されている基準範囲も共用基準範囲よりも厳しく設定されています。

共用基準範囲はあくまで検査値を判断する一種の手がかりに過ぎないのです。

各疾患のガイドラインが定める診断基準値で判断することが重要になります。

